

人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。

マタイによる福音書7章12節

150th
Toward the 150th
Anniversary in 2026

2026年
創立148年

2026年(令和8年)
3月11日 第22号

梅花女子大学

チャペル・ニュース

Chapel News

BAIKA
1878

発行

梅花女子大学宗教部
〒567-8578
茨木市宿久庄2-19-5
072-643-6221(代)
072-643-8997
E-mail skb@baika.ac.jp
澤山記念館1階

〈創立148周年記念礼拝奨励より〉

「愛なる女学校」

梅花学園 学園長 小崎 眞



はじめに

梅花学園創立148周年記念の時を祈りと共に迎えることができ、心より感謝いたします。礼拝の時であり、歴史的言説を含みますので、諸先輩をはじめ人名は敬称略で紹介いたします。その点をお含みいただければ幸いです。

さて、梅花学園は日本のキリスト教(主義)学校の中でも稀有な足跡を有した魅力的な学園であります。端的に言えば、キリスト教教会が教育現場(学校・学園)を生み出し、その現場が

キリスト教教会を生み出すという、祈りの連鎖を有した学び舎であります。まず、草創期の歩みを確認します。梅花学園の歩みの源流は関西の9教会(当時は公会)の祈りに遡ることができます。1878年1月2日、3日に開催された親睦会の中で9教会は日本基督教伝道会社を設立しました。その後、1月7日に、「梅本町公会(現・日本基督教団大阪教会・1874年創立)」と「浪花公会(現・日本基督教団浪花教会・1877年1月20日創立)」が梅花女子校の開校式を行っています。司式を浪花教会初代牧師であり日本人牧師第1号といわれる澤山保羅が担当し、澤山から洗礼を受けた同郷の成瀬仁蔵が式辞を述べています。この二つの教会

名称から「梅」と「花」を用いて「梅花」との女学校名が誕生しています。1月18日に大阪府知事より認可を受けたことにより、梅花女学校は公の歩みを始めます。本日1月18日が歴史上の梅花学園の創立記念日となります。生徒数増加に伴い、梅花女学校は1908年には土佐堀から北野へ、そして1926年には北野から豊中へと移転します。本年は豊中移転100周年の記念の年です。100年、150年、さらに、その先の梅花学園を目指し、現在の北摂(茨木と豊中)での教育研究活動のさらなる活性化を共に願いたく思います。

以上のことから、本日、高田学園宗教主事は浪花教会の創立記念礼拝の説教奉仕へ出向かれ、明日は豊中移転の翌年に梅花高等女学校と梅花女子専門学校在り生み出した梅花教会の山口牧師を招いて大学の礼拝が計画されています。

I 愛(love)何(Love+like)

さて、先ほど紹介した開校式の式辞で、成瀬は梅花が「愛なる女学校」として「愛の種」を育む場となることを願いました。澤山自身も「愛と祈りの人」と語り継がれるように、聖書に伝承される「愛の世界」に感銘を受けていたため、梅花学園では「愛なる女学校」との言葉が尊重されてきました。今朝は、澤山や成瀬が私たちへと託した「愛」の世界、「愛なる女学校」の魅力を、ご一緒に考えてみようと思います。

そもそも、愛とは何でしょう。15年以上も前ですが、2010年の「天声人語」の中で、「Love」と「like」はどう違うのか、とのテーマが扱われ話題を呼びました。それによると、「LOVE」は異質なものを求め、「LIKE」は同質なものを求める心の作用のようです。著者の深代惇郎は、次のような興味深い指摘をします。

神への愛であれ、異性への愛であれ、「愛」には不安定な激しさを感じられる。それは、自分と異質なものを、対極にあるものに立ち向かうために起こる燃焼のせいかもしれない。これに対し「好きだ」ということには、何か安定感がある。自分と同質なものを、共通するもの、同一線上にあるものを知る欲びであるためのような気がする。いいかえれば、「LOVE」は、異質な相手と合体することによってはじめて自分が完全になれるという欲求だとすれば、「LIKE」は、自分と同じものを相手の中に確認したい願望だといえようか（深代惇郎『深代惇郎エッセイ集』朝日文庫版より）。

II 聖書の中の愛？

では、聖書の中で「愛」はどのように語られているでしょう。先ほどお読みいただいた新約聖書には、「敵を愛し、迫害

する者のために祈りなさい」との有名な伝承があります。新約聖書の指し示す愛（敵を愛する）は、深代の指摘する「対極にあるものに立ち向かうために起こる燃焼」との視座に通じるものでもあります。さらに、異なるものとの出会いの意義を示唆しています。一方、旧約聖書の中では、「隣人を愛し、敵を憎め」とすすめられ、「敵に対抗する祈り（詩編17編13節 逆らう者を撃ち、屈服を願う）」が尊重されました。

新約聖書は、「目には目を、歯には歯を」といった同態応報どうたいおうほうの姿勢（旧約聖書の世界観）をこえた神の隣れみを宣言します。「父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせ

てくださる」と。言い換えれば、人間の愛は、自身の好み、自身にとって好ましいと映るものによって規定され、私たちが作りあげた条件に基づきます。主イエスの求めた愛は、人間の好みとは異なる眼差しを創造し、人間の条件から解放された無条件の受容を示唆します。

加えて、単なる「心情的なもの」というより、「迫害する者のために祈る」姿勢、その生き方への覚悟へと誘います。「迫害する」とは元来「追い払う、放逐する、熱心に追い求める」との意があり、「迫害する姿勢」には、自分の「思いや感情」が根底にあり、自己都合、自分本位で他者と接する姿勢が内包されていると言えます。新約聖書は「迫害する者」と同様の姿勢、すなわち自らの都合に縛られた姿勢ではなく、自己都合の思いを鎮め、「隣人と出会い、共に生きよ！」との決意へと導きます。その決意に基づく歩みは、隣人愛の戒めを成就した「完全



な者となった人」としての称賛ではなく、むしろ「不完全である」が、完全を目指して歩む「途上の人」、「完全へと期待されている存在」としての歩みであることを宣言します。



Ⅲ 「33個めの石」からの問いかけ
 具体例をもって、愛の話を深めてみようと思います。『33個めの石』という書籍があります。『生命学』の提唱者の森岡正博の著作です。彼は、2007年

4月16日、アメリカのバージニア工科大学のキャンパスにて発生した学生による銃の乱射事件を通し、生命の意味を問いかけています。一瞬にして、32名の学生と教職員の生命が銃弾により奪われました。翌週、被害者の追悼集会がキャンパス内で行われ、死亡した学生及び教職員を含め33個の石が置かれ、花が添えられました。被害者は32名、事件直後に自死した（自ら命を絶った）犯人のために、人知れず石が加えられました。ある女性記者によると、一人の女性学生が「33個めの石」を置いたとのこと。

彼女は言う。「犯人が何をしたにせよ、彼の人生には価値があったのだと私は信じています。私たちは33名の人間を失ったのです」。彼女のものには、何百通もの賛同のメッセージが送られてきた。否定的な意見はほとんどなかった（森岡正博『33個めの

石・傷ついた現代のための哲学」より）。

大学は同じ年の8月に犠牲者を追悼する正式な墓石を建立しました。そこに建立されたのは32名の墓石であり、自死した犯人は加えられませんでした。

Ⅳ 「33個めの石」が語り出す世界

私たちは自分自身を中心とした世界の中だけに安住しようとし、その方が楽で安心できるとするのかもしれませんが。そして「自分自身の理屈や思い」のみに胡座をかき、人を裁き、人を疎外し、自己正当化に満足します。「私的に無理だし……」と語り、私中心の関わりを重要視して、私にとって大切であるか否か、私にとって意味があるか否か、必要か否かを判断し、無意味なものや不必要なものはすべて排除したいと考えがちであります。

「33個めの石」の存在は、自己都合の考え方や私の条件を明



け渡し、異なる他者と出会うことになかに、私たちを新たに生かす宝が眠っていることを示唆しています。異なる事柄、異なる文化を受け入れる姿勢こそが、昨今の社会で喫緊に期待されているのかもしれませんが。換言すれば、私の計算に合わない世界に巻き込まれることを通し、自分自身の手中では計り知れない自分自身に出会えるのかもしれません。そこに、自分自身が疎外してきた異なる他者と共に歩む希望が噴出します。



おわりに

澤山保羅自身は、自分自身に降りかかる様々な苦悩と向き合い、自分の思いや期待をこえて働く不思議な力を信頼していました。その信頼は彼の「自給論」の姿勢を創出し、「愛なる女学校」に対する徹底した祈りの姿勢を育み、異なる他者を「愛すること」の意義を求め続けたといえます。今、150周年を前に、梅花学園へと招かれている学生、生徒、園児の皆さん共々、

お互いの「条件から解放された」愛の関わりの内に生きる喜びへと導かれたいものです。異なるものとの出会いを通し、自身が新たな世界へと導かれることを確信しつつ、創立記念の時を共にお祝いしたく思います。

本日は2025年表彰者の方々もご参加いただいたいます。皆さんのご功績に敬意を表したく思います。様々な分野での異なる出会いを通し、新たな自分自身を発見すべく、果敢な挑戦を続けておられる姿勢に誇りを抱くと共に励ましを与えられています。お一人おひとりが「愛の種」を成長させている途上の人であり、同時に「愛」を育てる人として創立者の祈りに連帯していただければ大変嬉しく思います。何より、梅花学園に連なる全ての方が、創立者の「愛に根差した祈り」に連なり、新しき時代に向け、祈りの連鎖を広げるべく、一翼を担っていただきますことを切に願い、共に祈りを合わせたく思います。

〈チャペル・アワーの奨励より〉

「視野を広げることが未来をつくる」

本学入試広報部 入試グループ 福元 和香奈



みなさん、こんにちは。私は梅花女子大学 入試広報部 入試グループの福元和香奈と申します。このようなかたちで、みなさんにお話をさせていただくのは初めてなので、少し緊張しておりますが、どうぞよろしくお願ひします。

同じキャンパス内におられますが、「誰ですか?」と思われる方が多いと思います。もしかしたら、高校時代の進学ガイダンスやオープンキャンパスなどで会ったことがある方もいらっしゃるかもしれませんが、エレ

ガンスキャストの広報スタッフの方であれば、顔を見たことがあるという方もいらっしゃるかもしれません。

ここで、簡単に自己紹介をさせていただきます。私はこの梅花女子大学の卒業生でもあります。鹿児島出身で鹿児島の高校を出て、この大阪にある梅花女子大学に入学をしました。卒業してからは20年以上が経ちましたので、みなさんよりもずいぶん前の卒業生になります。大学卒業後は一般企業で約7年間、経理業務やデータ集計、資料作成など事務職として働いていました。そして、ご縁があり、母校であるこの梅花女子大学で、今は勤務をしています。卒業生として、また職員として、こうやって今のみなさんと関わることが、私自身とても嬉しいことです。

今回は、チャペル・アワーという大切な時間をいただいて、みなさんにどういうメッセージをお伝えできるかなとみなさんにとつて、少しでも何かのきっかけや手助けに、そして、プラスにしてみたいかと思つた。真剣に考えさせていただきました。

さて、今の時代は本当に便利で、好きなことに集中しやすい世の中だと思つています。みなさん、SNSやサブスクはよく利用されていますか？ されている方が大半ではないかと思つています。たとえばSNSやサブスクを使えば、自分の好きな情報や映像、音楽、コンテンツに簡単にアクセスができ、検索すれば、すぐに答えが出てきます。また、一度、検索をかけたり、視聴すると似通ったコンテンツが勝手に出てきたりもします。タイムパフォーマンスだったり、それはとても効率的かつ便利で、良い部分がたくさんあると私自身も感じています。

自分の好きなことや興味があることに時間を費やせる、触れていられるというその一方で、自分が「選ばなかったもの」や「興味がなかったもの」と触れ合う機会は、以前よりもずっと少なくなっていると思つています。選ばなかっただけで、その先には、本当はすごく楽しいこと、心が動かされること、もつと新たな世界につれていってくれる可能性もあるかもしれません。私自身は、実はそういう「予想していなかった出会い」によって、自分の世界が大きく広がったことが何度もあります。

その一つが、大学時代に出会ったチアリーディングです。入学当初はチアリーディング部に入るだなんて1ミリも思っていなかったのですが、ある日たまたまキャンパス内で声をかけていただき、いわゆる勧誘というものですが、思い切つて見学に行き、そのまま入部していました。実はそれまで、高校では吹奏楽部に1年だけ所属し、その他は帰宅部でした。

た。運動経験もなかったのかかなり異例な部活経歴かと思つていますし、もちろん大きな不安もありました。でも挑戦してみると、そこには、今まで知らなかった自分の可能性がありました。仲間と支え合いながら、苦しい練習も乗り越えて、全国大会や世界大会、海外遠征など、人生の中でも特別な経験をすることができました。

一緒に頑張った仲間とは、卒業した今でも繋がっていて親友として支え合っています。私はその後、社会人になつても10年間チアリーディングを続けました。学生時代も社会人になつてからも、「なんでここまで続けられたんだろう」と振り返つて考えることがあります。それはやっぱり、チアリーディングが「応援するスポーツ」だったからだと思います。仲間を、そして誰かを、前向きに応援する。そして、自分自身もまた応援されていました。そんな経験が、今の私の原点にもなつています。

でも人生には時に、応援されていても、どうしても、立ち止まらざるを得ない時があります。私にとつて、それは13年前に父を亡くした時でした。尊敬していた優しい父が、ある日突然この世からいなくなつた。息ができないくらいに、悲しくて、仕事では、気丈に振舞うことはできたのですがプライベートに關しては、しばらく外に出られない日が続きました。そんな時、



大学時代の友人が「あなたが来てくれるまで、ここで待つてから」と連絡をくれました。その言葉が、外に踏み出せない私の手を引っ張ってくれました。「来るまで待つて」と言ってくれた、その言葉に私は救われました。

人との出会いや縁は、本当に不思議で、とても力を持っています。人生には、いくら頑張っても結果が出ないことや、自分だけではどうしようもないこと、悲しいことや、辛いことが起こることもあります。でも、それを支えてくれる「人」や「こと」や「言葉」に、きっと出会えます。だからこそ、色んなことに興味を持ち、色んな世界に触れてほしいと思います。

そして、今の仕事についても、私の世界を広げてくれました。私は、もともと人前に出て話すことがとても苦手でした。できれば人の注目を集めたくないという気持ちがあったくらいです。今のお仕事は、人と多く関

わるお仕事で、また、このように人の前で話す機会もあります。今はこの仕事での経験が、少しずつ自分の強みになってきました。今では、友人の結婚パーティーの司会進行を任せられるほどで、来られた方からも本当に良かったよと言っていた。たことは、私の自信にも繋がっています。人生って本当にわからないと思うほどです。

色々な経験をすることで、色々な考えに触れることもできます。自分の視野が広がり、悩んだ時や困った時の答えを引き出してくれるヒントを与えてくれて、その場面で見る景色が心を軽くして、救ってくれることもあります。

そして、私自身、伯父が言ってくれた言葉です。心に残っている言葉があります。「人の中には、人生において、特急電車に乗って目的地にすぐ到着できる人もいるけれど、各駅停車でしか見えない景色もある。人それぞれではあるけれど、各駅

は各駅の良さがある」という言葉です。私は、たぶん各駅停車に乗っているタイプかと思いません。時間はかかっても、その途中で出会った人、見た景色、経験したこと。それが今の自分を作ってくれていると、心からそう思っています。

たとえマイナスな出来事であっても、自分自身の考え方や捉え方一つでプラスに持つていくことは可能です。色々なものに触れて、色々な世界を見て、経験をし、そこで繋がった縁が、仮にマイナスな出来事が起こったとしても乗り越えることを手助けしてくれる材料になってくれます。みなさんにも、そうやって色々なことに触れて、自分自身が経験し、人生を進んでいってもらえれば嬉しいのです。

今回この時間は、聞いてくださっている多くの方が1年生の方かと思えます。大学1年生として新しい生活を始められて3カ月ほどだと思えます。もう

すっかり慣れてきたよという方も、まだ慣れなくて不安があるという方もいらつしやるかもしれません。でも、どんなタイミングでも大丈夫です。焦らなくてもいいと思いますし、迷っても大丈夫です。今この時間、この瞬間も、自分を形作ってくれている大切な一歩です。だから、ぜひみなさんにもお伝えしたいです。

自分が「興味ない」「関係ない」と思ったことにも、飛び込んでみてほしい。失敗を恐れず、一歩を踏み出してみてほしい。とても勇気があることで、怖さもあるかと思いますが、まずは、一歩を踏み出してみてほしい。自分を助けてくれる「ご縁」や「言葉」と出会ってほしい。自分の視野を広げてほしい。ご縁。

最後に、この大学での4年間は、思っている以上に早く時間が過ぎていきます。ぜひその時間を自分のペースで、でもしっかりと味わって過ごしてください。

い。どんな歩み方でも、どんな電車に乗っていても、みなさんの歩む道に意味があると、私は信じています。みなさんのこれからの人生が、たくさんの実りがあったって良いものになること

〈チャペル・アワーの奨励より〉

「メンタルダウンを乗り越える」

本学国際英語学科講師 韓 光勳



私は大学院修士課程を修了後、2019年4月から全国紙の記者として働き始めました。しかし、3年間働いた後、メンタルダウンを経験しました。過労にコロナ禍特有のコミュニケーション不足が重なったものでした。

を、心から願っています。本日は、本当にありがとうございます。



メンタルダウンといっても様々な種類がありますが、私のものは比較的重かったと思いますが、ひとまず休職し、心身の回復に努めました。カウンセリングで話を聞いてもらいながら、新聞記者からのジョブチェンジを図りました。

きっかけになったのは1冊の英語の本です。アメリカ政治についての本で、特にトランプ政権の支持者を分析したものでした。本の文字を追うのも辛かった休職直後から回復し、その時はなぜかスラスラと英語を読む

ことができました。メンタルダウンから3カ月程度がたった頃でした。

仕事が辛かった時期から回復したのを実感しただけではなく、アメリカ政治についての本を読むのが面白かった。当時はバイデン政権でしたが、トランプ大統領の支持者がまだ健在なことが分かり、密かにトランプ再選もありうるのだろうと思いました。その後、本当にその通りになり、さらに驚くことになったのは言うまでもありません。

英語の本を読めるというのは、日本では一般的には珍しいことだと思えます。「もしかしたら、自分は研究者になれるのではないか。というか、研究者になりたいのではないか」と直感的に思いました。これは直感としか言いようのないものです。「啓示」といったら大げさかもしれませんが、まさに「雷に打たれた」ように、突如そう思ったのでした。そう思うタイ

ミングは向こうからやってきた。「答え」は向こうからやってきたのです。私はそれをただ掴んだだけです。

そこから博士課程への進学を決意。会社を辞め、大学院に通い始めました。大学院での研究はとにかく楽しかった。新しい概念、考え方を学び、それに基づいて議論する。これがすごく面白かった。興味深かった。記者生活のおかげで、質問力も高まっていた。「クリティカル・シンキング」をより深くできるようになっていました。これは記者の仕事を経験した効用でした。メンタルダウンは経験したものの、記者としての経験もムダではなかったのです。

会社を辞めたあと、韓国への留学も経験しました。私は日本生まれ育ちの在日コリアンで、韓国に長期滞在した経験はありませんでした。1年間、韓国・ソウルに住み、様々な経験をしました。得難い経験ができました。語学力が向上しただけでは

なく、本当に様々なものを見聞きし、私の韓国社会に対する見方、理解が深まりました。このとき学んだことは、今の大学教授としての仕事に直結しています。

次に「雷に打たれた」のは、生まれたばかりの娘の顔を見たとき。「大学院に通っているだけ、研究しているだけではだめだ」と強く思いました。そこから就職活動を始め、縁あって梅花女子大学に赴任することができました。

私が自分の経験から言えるのは、「メンタルダウンを経験した場所からは逃げたほうがいい」ということです。日本社会では「仕事は辞めないほうがいい」とか「一度始めたことは最後までやり遂げるべきだ」といった価値観が一般的に強いと思います。これは一概に悪いこととは言えないのですが、この価値観に縛られてしまうと、理不尽な場所からも逃げられなくなってしまう。でも、本当

は逃げていいのです。「逃げてはだめだ」と考えると、あまりに窮屈になってしまいます。「逃げてもいいんだよ」と、メンタルダウンの渦中にいる人には言ってあげたいと思います。

もう一つ伝えたいのは、大学生の時に色んな価値観に触れることの重要性です。20代前半までは他者からの影響を受けやすいですし、ある意味でスポンジのように色んな価値観を吸収しやすい時期だと思います。この時期にたくさんの人と率直に語り合う経験、あるいは留学など、異文化に飛び込む経験をしていると、その後の人生に大きな影響があると思います。

私は23歳の時、オランダに1年間留学しました。オランダは日本とは全く異なった社会でした。「ワークライフバランス」という言葉がありえないとか、むしろ「ワーク」(仕事)より「ライフ」(人生)のほうが重要だというのは当たり前前の話で、わざわざ言葉にするような

類のことではないのです。人生より重要なものはない。仕事を優先させるなんてありえないです。むしろ、仕事は人生の一部であり、人生を豊かにさせるものでありこそすれ、人生の価値を損なうようなものであってはならない。過労なんでもってのほか。そういう価値観をもった社会でした。

私は20代の時期にこのような社会を見聞きできたおかげで、過労になっていよいよ追い込まれたとき、ジョブチェンジを果たすことができました。オランダに留学しておいて良かった心の底から思います。留学の経験がなければ、前の会社で我慢しずつと働いていたかもしれない。そういう人生もまた一つの選択ではありますが、私は今の人生のほうが幸せだと確信を持って言えます。



大学で何かを教える仕事は本当にやりがいがあり、面白いものです。私が教えるよりも、むしろ私が学生から何かを教えるもらうほうが多い。今は韓国語の授業や1・2年生向けのセミナーの授業が中心ですが、学生たちからはSNS利用の実態とか、現在流行っているアイドルグループとかについて詳しく教えてもらいました。いずれも33歳の私から見たらすごく新鮮で、非常に興味深いことばかりでした。学生たちとは約15歳離れているので、一世代違います。世代が違うと見ている世界が全く違うのです。これは新たな発見でした。

2026年度から、国際教養学科が新たにスタートします。国際教養学科はグローバルスタディーズ専攻、韓国文化専攻、観光エアライン専攻に分かれ、多様な学びを提供します。私はグローバルスタディーズ専攻と韓国文化専攻の授業を受け持つ予定です。韓国語も教えますし、韓国映画を題材として韓国の歴史

史や社会について学ぶ授業、現代の国際政治の歴史を学ぶ授業を展開する予定です。

今は来年度の授業を準備してありますが、なるべく学生が授業に興味を持って、前のめりになって参加してくれる授業にしたいと思っています。そのためには、まず私自身が学生のことをよく知る必要があります。彼女たちは何に興味を持っているのか。何が気になるのか。何を学びたいのか。私はいつも授業の初回ではそういったアンケートを取り、学生自身に語ってもらうようにしています。学生の興味を引き出し、自身が持つ興味にしたがってそれぞれの学びを深めてもらうことを目指しています。学生の話にはきちんと耳を傾けることを常に意識しています。

学生たちは正直なので、退屈な授業をしてしまうと、すぐに眠そうにしたり、うわの空になったりしてしまいます。そういう様子を無視して淡々と授業を進めることもできますが、私

はそれはやりたくない。学生が退屈そうにしていると、こちらも辛くなってしまう。私も共感性が高いので、相手の感情がダイレクトに自分のテンションにつながるのです。学生のテンションが低いと、私のテン

〈チャペル・アワーの奨励より〉

「麦はいろいろ、あなたもいろいろ」

日本基督教団 明石教会牧師 石田 求



マタイによる福音書 13章 24、36、43節

今日の話に毒麦というものが出てきます。毒麦というのは雑草のことで、日本ではほとんど見かけることがないそうです。最初は普通の麦と区別が付き

ションも低くなる。どうせ授業をやるのなら、私も楽しんでやりたいですし、学生にも楽しんでほしいと思っています。国際教養学科では「楽しく深い学び」を提供したい。今はそう考えています。

くく、毒麦か判別するのは難しいようです。毒というくらいなので、毒麦を食べると家畜が中毒を起こし、時には死んでしまうこともあります。また毒麦が混ざった粉で作ったパンは、人間にも有害です。ただ、毒麦自体に毒があるわけではなく、種に菌が感染し、その菌の毒によって中毒が起こるそうです。毒麦自体に毒はないのに、毒麦と呼ばれているのは少しかわいそうな気がします。

さて、今日の聖書の言葉を聞

いて、どう思いますか。ある種の絶望感を私たちに与えるのではないかと思えます。畑に良い麦を蒔いたはずが、敵の仕業によって毒麦が入り込んでしまいました。成長段階で毒麦を抜いてしまうと、良い麦まで抜く可能性があるから見分けが付くまで成長させて、収穫の時に毒麦を集めて焼いてしまおうと言うのです。そして読んでいただいた36節以下はこのたとえの説明になっています。そこを読むと畑は「世界」、良い種は「御国の子ら」、毒麦は「悪い子ら」となっています。世界には良い子と悪い子に分けられているというのです。そして世の終わりには選別されて、毒麦は火で焼かれてしまいます。もしこの世界が良い子と悪い子に分けられているなら、私たちは良い方になりたいと思うはず。悪い方にはなりたくないし、焼かれるのを待つというのは虚しいだけですから。

しかし、たとえ良い方になりたくても、毒麦はどう頑張っ

も良い麦にはなれません。毒麦は毒麦だからです。最初は見分けたがつかないけど、生えてみたら毒麦だった。「さあ、ここから頑張つて良い麦に変わりますよ」と言つても、毒麦である事実は変えられません。そうであるならば、私たちはあらかじめ良い種か毒麦か決められていて、その決定に抗うことはできないこととなります。「あなたは毒麦に生まれたのだから焼かれるのを待ちなさい」というのはあまりにも救いがないではないですか。悪い存在、無意味な存在、罪人と呼ばれた人たちと一緒に生きたイエスが果たしてこんなことを言うのでしょうか。

それでは今日のたとえの説明はといったいどのような意味を持つていたのでしょうか。実は聖書の中で、このようなたとえの説明ということが書かれている場合、後の時代にイエスの言葉を解釈して、書き加えられたものと考えられています。だからイエスが本来話したたとえの

内容とは違うことが書かれていることとなります。

私は1本の麦、すなわち良い麦と毒麦がそれぞれ1人の人を表しているのではなく、この畑全体が1人の人を表していると思うのです。それはつまり、私たちという畑の中には、良い麦もあれば、毒麦もあるということです。「あなたたちの中には良い部分も悪い部分もある。それがあなたという畑ですよ」ということです。イエスはきつと人のことを良い者とか、悪い者とか断定することはしなかったと思います。「両方を含んでいるのがあなたです」と語りかけたのだと思います。



〈止揚学園訪問〉

「止揚学園を訪れて」

本学こども教育学科准教授 花房 ナオミ

9月、宗教部の企画で止揚学園を訪れました。これまで学園で生まれた絵本や福井達雨先生のお話に触れる機会もあり、いつか訪れてみたいと思つていた場所でした。そして、この学園に数年前から親戚のKくんがお世話になつていふこともあり、彼の生活を一度見てみたい、という思いも手伝つて訪問させていただきました。

Kくんは生まれた時から重い障がいがあり、生活のすべてに支援が必要です。献身的に支え過ごしてきた家族を垣間見ました。家族と離れて生活をするKくんの思いは計り知ることができません。身の回りのこと、意思の疎通は？ 1日をどんなふうに通ごしているのか、訪れるまで心配な気持ちで心を占めていました。

園内を見学しながら、スタッ

フの方がKくんのこだわりや楽しみをエピソードにして教えてくださいました。思いを言葉で表すことが思い通りになるわけではないだろうし、行き違いもあるだろうけれど、いろんなこと、ちよつとしたゆとりをもつて一緒におもしろがるような空間がここにはあるんだな、と感じました。ホールではゲームを楽しみました。スタッフと仲間の笑い声が溢れています。最近、笑つてないな……と心にゆとりのない自分になつてしまつた瞬間でした。

一緒に美味しいごはんもいただきました。温かいごはんを食べる仲間がいること。お腹が満たされること。受け入れられ安心した気持ちで過ごすこと。スタッフの方々の努力があつての日常だと感じます。帰り際、プール遊びで水浸しになつたKくん



と仲間が気持ちのよい表情で私たちを見送ってくれました。めいっばい遊んできたよ！と言わんばかりのKくんの表情にホッと嬉しい気持ちでいっぱいになりました。

印象的だったのはスタッフの方々の服装です。職員JJジャージを履いてお世話をする人、というイメージをもっていた私でしたが、スタッフの方々は可愛らしいシャツにふんわりとしたスカート。支援者である前に、生活を共にする家族という印象

私は、今回止揚学園を訪問するのは二度目でした。

一度目は、高校生の時に地域の福祉施設を回るイベントに参加した際に訪問しました。初めて訪問した際は、とても目を引くカラフルな建物に驚き、一番印象に残りました。福祉施設についてあまり知識がなく、少し不安でしたが、入居者の方々の温かいお出迎えや職員の方の丁寧な説明で、不安がなくなり、すっかりと止揚学園を見学し、入居者の方々と交流することができました。帰る際には、「また



「止揚学園を訪問して」

日本文化学科1年生 加藤 蓼花

をうけました。そしてスタッフの皆さんがとても楽しそう。その笑顔に迎えられる私たちも、ホッと安らぎと元気をもらえるのです。

壁には各地から遊びに来た子どもたちや、他国から研修に来

た方々の記念写真があります。皆、共に生きる喜びを再確認して帰るのだろうと思います。これからも止揚学園の幸せな雰囲気の世界に広がりますように、と願います。

ねー！」や「また来てねー！」とお見送りしてくださいました。

二度目は、今回の梅花女子大学で止揚学園を訪問しました。チャペル・アワーで止揚学園と聞き、チャペル・アワーの冊子に止揚学園の建物の絵があり、とても驚きました。止揚学園を訪問できると聞き、前回訪問した際に「また来てね」と言ってくださったことを思い出し、また訪れたいと思いました。

今回は、召天者記念礼拝・運動会の招待状を作るお手伝いや入居者、職員の方々と一緒に食



事などをする事ができ、とても楽しく過ごすことができました。また、入居者の方々と交流、園長の福井さんや職員の方々とたくさんお話を聞くことができ、とても勉強になりました。今回も帰る際に「またねー！」と思いやりのあるお見送りをしてくださり、心が温まりました。この度の止揚学園の訪問で、たくさんのお話を聞き、知見を深めることができました。



〈止揚学園訪問〉

「止揚学園の訪問での気づき」

心理学科1年生 山下 美琴

自然にあふれており、施設の方々の皆さんが伸び伸びと過ごしている姿がとても印象的でした。学園の方の個性に合わせた部屋の設計がなされていて、たくさんの人々の愛でできていると強く感じることができました。

中でも部屋の壁がひとつひとつ違って、お話を聞くと利用者さん方と相談して壁紙の柄を選んだりしているというエピソードなどはとてもほっこりするようなお話でした。

特徴的なデザイン施設のの中には、段差が少なくなるようにスロープが至るところについており、バリアフリーも積極的に導入されていました。昼食は利用者さんと職員さんですべて手作りしているようで、食前には賛美歌とオリジナルの曲を歌って楽しく、おいしくいただきます

した。オリジナルの曲は利用者さんがよく言葉にすることなどをベースに歌詞が作られて、それをみんなのリズムに合わせて歌う形でした。中には歌がないと落ち着かない方もいるよう

互いに認め合うあたかな心もはぐくまれる場所だと感じました。今回の訪問で学園の方々だけではなく、初めて会った梅花の学生の方とお話することで自分の目指したいものや、将来についても一度深く考えることもできた貴重な体験でした。



2025年度 献金のご報告

いつも宗教部の諸活動にご協力いただきましてありがとうございます。下記送付先に集めた献金を送付いたしました。ご協力いただきました皆様に心より感謝し、ご報告申し上げます。

《 献金送付先と内訳 》 敬称略

前期献金

・日本キリスト教海外医療協会	23,000円
・救世軍希望館	19,000円
・止揚学園	19,000円
・パンダ園	19,000円
・レバノンホーム	19,000円
・大阪水上隣保館	5,000円
・振込手数料(銀行・郵便局)	1,006円
<hr/>	
合計	105,006円

後期 クリスマス献金

・止揚学園	13,000円
・レバノンホーム	12,000円
・救世軍希望館	12,000円
・日本キリスト教団部落解放センター	12,000円
・日本キリスト教海外医療協会	12,000円
・パンダ園	11,000円
・ガザ地区アハリー・アラブ病院支援金	11,000円
・振込手数料(銀行・郵便局)	1,006円
<hr/>	
合計	84,006円
総合計	189,012円

※クリスマス献金残金901円は、2026年度前期献金に繰り入れさせていただきます。





アドベント点灯式
2025年11月20日(木) 学生会館前



アドベント音楽礼拝
2025年12月1日(月) 澤山記念館礼拝堂



クリスマスデー クリスマス礼拝
2025年12月13日(土) 澤山記念館礼拝堂



大学クリスマス礼拝

2025年12月22日(月) 澤山記念館礼拝堂



宗教部 一年の歩み

新体制の発足から二年目を迎えた本年度は、昨年度から積み重ねてきた歩みをさらに確かなものとする一年となった。学園の建学の精神を伝える重要な役割を担っているチャペル・アワー（礼拝）を安定して営み、その活動を守り続けることに全力を注いだ。

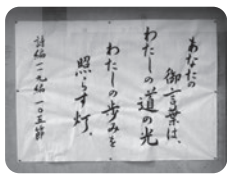
4月14日(月)
第1回チャペル・アワーと宗教部オリエンテーション

3 講時に澤山記念ホールにチャペル・アワーと宗教部のオリエンテーションを行った。講師は本学宗教部長の高田太先生、奏楽は水間泉先生が担当した。



4月
学生会館前の聖句の掲示

学生会館の宗教部掲示板に、毎月1年間日本文化学科教授の相奈良公仁子先生が指導されている学科の学生たちが描いた聖句の書を掲示した。



5月中旬ごろ
青梅の収穫と販売

学内で実った青梅を有志の教職員・学生ボランティアで5月中旬から収穫し、販売した。売上金は、前期献金に充当した。



6月29日(日)
梅花教会創立98周年記念礼拝
記念礼拝と愛餐会に小崎眞学園長と高田太先生が参加した。

8月29日(金)
職員による梅花中高訪問と視察
活動を知るために視察・交流訪問を行った。



9月2日(火)
止揚学園訪問
教職員・学生の合計7名で訪問した。

9月19日(金)
口腔保健学科3年生の臨床臨地実習宣誓式

午前10時40分時から澤山記念館礼拝堂にて口腔保健学科3年生の臨床臨地実習宣誓式が開催された。奏楽は水間泉先生、宗教部長の高田太先生から奨励があった。



10月15日(水)
建学の精神に関する教職員研修会

16時20分から澤山記念ホールで「梅花女子大学の建学の理念を現在に愛なる女学校」と題して日本基督教団高崎南教会牧師・元同志社大



学神学部教授原誠先生にご講演いただいた。



11月20日(木)
アドベント点灯式

17時50分から学生会館前で行われた。ツリー点灯は河村圭子学長、司会は高田太先生。奏楽と合唱は8名の学生有志が担当された。点灯式終了後、礼拝堂南側控室で茶話会を行った。



12月1日(月)
アドベント音楽礼拝



13時から礼拝堂で梅花学園同窓会コーラスグループ、エコー梅花の皆さんによる合唱と高田先生の奨励「クリスマスを待ち望む歌」があった。奏楽は水間泉先生、司会は高田太先生。

梅花教会牧師の山口恒先生より学園クリスマス標語である「ありがとうのクリスマス」と題して奨励があった。



12月22日(月)
大学クリスマス礼拝

13時から澤山記念館礼拝堂で行った。奏楽は水間泉先生。司会は高田太先生。キャンドル点灯、聖書朗読、献金袋回しは6名の学生有志が担当した。日本基督教団大阪教区議長、南大阪教会牧師の尾島信之先生より「たんじょう日です、おめでとう」と題して奨励があった。



1月18日(日)
創立148周年記念礼拝

午前10時から澤山記念ホールにて梅花学園創立148周年記念礼拝が開催された。梅花学園学園長の小崎眞先生から「愛なる女学校」と題して奨励があった。司式は中学校・高等学校校宗教副部長



の山口教子先生。奏楽は水間泉先生が担当された。



1月18日(日)
浪花教会 創立149周年記念礼拝

高田太先生が説教奉仕をされた。

2月20日(金)
書籍の出版

高田太先生を共同編集者として、「アメリカン・ボードと日本のキリスト教主義学校」がキリスト新聞社から刊行された。梅花女学校を含む9つの学校が紹介されている。ぜひお買い求めください。



3月17日(火)
大学・大学院卒業礼拝

大学・大学院卒業礼拝を午前11時に、礼拝堂で行う。奏楽は水間泉先生、司会は高田太先生が担当される。日本基督教団浪花教会牧師の川江亜希子先生から「はじまりの日」と題して奨励をいただく。

3月27日(金)
澤山保羅先生墓前祈祷会

昨年と同様に、澤山保羅先生の召天日に合わせて、14時すぎから大阪市設南霊園で行う。司会は山口教子先生、奨励は高田太先生が担当される予定である。



3月末
チャペル・アワー奨励集No.2の刊行

2021年度から2023年度のチャペル・アワーにおいて、各地の教会や福祉施設からお招きした16名の講師による奨励を収録し、冊子として刊行する予定である。



2025年度 チャペル・アワー講師一覧

(敬称略)

月	日	奨 励 題	略 歴	奨 励 者
4	14	チャペル・アワーとは何か？ なぜチャペル・アワーがあるのか。	本学宗教部長	高田 太
	21	続・最初から一番目の愛	日本基督教団浪花教会牧師	川江 亜希子
	28	神さまが準備してくださっていること	日本基督教団梅花教会牧師	山口 恒
5	12	新たな歩みへ～愛以貴之～	梅花学園学園長	小崎 眞
	19	人生の主題を考える	本学日本文化学科教授	菅本 大二
	26	心がきこえてきます	止揚学園園長	福井 生
6	2	いつも前を見る	児童養護施設レバノンホーム施設長	栗本 一美
	9	あなたが立ち直ったら	日本基督教団平安教会牧師	小笠原 純
	16	弱い時にこそ強い	日本基督教団大阪教会牧師	本庄 侑子
	23	応援の力	梅花学園同窓会滋賀支部長	村井 三幸
	30	視野を広げることが未来をつくる	本学入試広報部職員	福元 和香奈
7	7	苦しいときの神頼み？	日本基督教団高石教会牧師	高塚 純平
	14	みんなで生きる	日本キリスト教海外医療協力会(JOCS)理事・事務局次長 日本基督教団早稲田教会員	名取 智子
	21	違いを越えて	日本基督教団鳳教会牧師	三浦 遙
	28	悪の誘惑から逃れるには	日本基督教団摂津三田教会牧師	久保田 愛策
9	22	命の賠償	日本基督教団天満教会牧師	小西 望
	29	キリストの涙	淀川キリスト教病院チャプレン	濱本 京子
10	6	麦はいろいろ、あなたもいろいろ	日本基督教団明石教会牧師	石田 求
	13	後ろからの声は「神の声」	認定こども園あおい宙川西園長 日本基督教団梅花教会員	濱添 吉生
	20	神さまに愛されて	日本キリスト教団いずみ教会信徒 日本キリスト教団部落解放センター元委員長	東谷 誠
	27	ネバーギブアップーバウムクーヘン物語ー	日本基督教団磐上教会牧師	成田 いうし
11	10	ただあなたが生きて存在することが尊い	日本基督教団桂教会牧師	熊谷 沙蘭
	17	言葉を大切に	児童養護施設救世軍希望館館長	畑瀬 剛
12	1	クリスマスを待ち望む歌	本学宗教部長 梅花学園同窓会コーラスグループ	高田 太 エコー梅花
	8	メンタルダウンを乗り越える	本学国際英語学科講師	韓 光勲
	15	愛と尊敬をもって	日本大学歯学部客員教授	尾崎 哲則
	22	たんじょう日です、おめでとう	日本基督教団南大阪教会牧師	尾島 信之
1	5	ステラに導かれて	日本基督教団千里聖愛教会牧師	中島 正勝
	19	自分にできること	日本基督教団梅花教会牧師	山口 恒
	26	心に光を受け止める	日本基督教団東神戸教会牧師	大澤 宣

宗教部編集後記

校内に春の気配が感じられるようになりました。皆さま、お変わりありませんか。

2025年度は、「あなたの御言葉は、わたしの道の光、わたしの歩みを照らす灯。」(詩編119編105節)という年間聖句が与えられました。また、4月1日には小崎眞先生が梅花学園学園長に就任されました。学生・教職員が共に聖書の言葉に耳を傾け、それぞれ御言葉に導かれて進む一年となりました。

今年度のチャペル・アワーも、すべて対面で実施し、出席が叶わなかった学生・教職員のための録画配信も継続しました。また、アドベント音楽礼拝では、コロナ禍以来となるライブ配信を行いました。昨年9月に澤山記念館礼拝堂のネットワーク環境が整備されたことにより、これまでの有線LANに代わり、録音機材を含めた無線接続による新たな配信環境へと移行しました。これにより、ケーブルの制約を受けない円滑な運用が可能となりました。

今年度も、多くの学生・教職員の祈りと支えの中で、新たな試みにも挑戦し、多くの方々との礼拝の時を守ることができました。心より御礼申し上げます。本号が、御言葉をあらためて心に刻み、その御言葉がそれぞれの歩みを静かに照らす一助となれば幸いです。(N)